

中丹文協連だより

第22号

発行日
2025. 10. 25

発行者
中丹文化協会
連絡協議会
〒625-0036
舞鶴市字浜2021番地
舞鶴市総合文化会館内
TEL 0773-64-5109
FAX 0773-64-5109

発行責任者
宮下敏夫

編集責任者
松浦盈雅

中丹文化芸術プロジェクトの 成功を願って



中丹文化協会連絡協議会

会長 宮下敏夫

各文化協会の皆様には、地域における文化の振興、発展のために日頃から尽力頂いております事に感謝し、深く敬意を表します。

中丹文化協会連絡協議会が発足して今年で四十一年目を迎えます。又、中丹文化芸術プロジェクトは今年三十九回目を迎えることになりました。

中丹文化芸術祭は七月十三日、福知山市厚生会館でオープニングセレモニーを行い、「踊りとダンスの祭典」「新進演奏家の調べ」「中丹写真展」「コーラスフェア二〇二五」「短歌・俳句・川柳公募」「邦楽のつどい」の六事業を開催いたします。

中丹文化交流フェスタは第十一回目となります。「中丹和太鼓フェスティバル」「ジュニア文化祭」「アンサンブルフェア」に加え、「楽器のワークショップ」も

開催いたします。

中丹地域の文化を担う次世代等の育成および文化芸術の新たな参加者の拡大を図り、文化による地域の活性化を目指し、また、舞台発表の様子をインターネットなどで配信し、地域文化を国内外へ広く発信することなど、これまでとはまた違った魅力を企画していきたく考えています。

それぞれの文化協会での「文化祭」等、取り組まれている外に、各会派の発表会、展示会、お茶席等盛り沢山の事業があることと思います。

三市三町の文化の交流も行い新たに見聞を広め、情報を交換し、各文化協会の地域の特性を生かした文化芸術、伝統行事の発展に努力していきましよう。

終わりに各文化協会の今後益々の発展をお祈りし、ご挨拶と致します。



題字 松山正道（舞鶴市）
書 「心泰身寧」
心は康く身は寧し

解説文
心身が安らかである
俗世の欲望から離れた心境のこと。

生島游華（福知山市）

写真「頑張るぞ」

白木勇治（大江町）

解説文
滋賀県近江八幡左義長祭のワンシーン。
各奉納町が、その年の干支を題材にした
ダシを勇壮に担いで練り歩きます。
かの織田信長も好んで町衆と共に踊り
出たという、由緒あるお祭りです。

舞鶴市文化協会

事業計画

今日までの成果を基盤に文化的で活力ある活動の取組みを重視しながら、舞鶴市文化協会として、「個性的な地方文化の創造」をめざして左記の事業を計画する。

次世代育成・見せる文化活動と共に体験する文化活動の取組みを実践し、より一層の充実発展を図る。

(1) 地域文化の振興に関する事業

令和7年度創立80周年記念事業

(令和7年度舞鶴市総合文化祭)

① 創立80周年記念式典

10月4日(土)

舞鶴市総合文化会館大ホール

80ふえす(創立80周年記念ステージ)

10月4日(土)～5日(日)

舞鶴市総合文化会館大ホール

80ふえす(創立80周年記念展示の祭典)

10月3日(金)～10月5日(日)

舞鶴市総合文化会館小ホール・展示室

② 文化祭(自主公演)

10月～11月 舞鶴市内公共施設

(2) 機関誌の発行に関する事業

① 「ぶんきょう」第13号の発行(4月)

② 機関誌「文協だより」第40号の発行(9月)

(3) 他団体との連携に関する事業

① 中丹文化芸術祭への協力・出演

② 中丹文化協会連絡協議会との連携

③ 舞鶴市生涯学習推進課及び舞鶴市文化振興課ほかへの協力

④ 舞鶴子ども育成支援協会との連携

⑤ その他、関連する文化事業

(4) 加盟団体の活動状況調査に関する事業

① 調査表の記入と集計

(5) 加盟団体の事業



三和町文化協会

活動方針

会員数の減少など多くの課題を抱える中だが、令和七年度も、機関誌「文化」の発行や、三和ふれあいフェスティバルへの参画などを通じて、住民や関係者との文化交流に努め、当文化協会に対する認知度、期待度を少しでも高めたい。現在の会員数は約五十人。ここ数年は会費の増額や、地域の企業・団体からの協力金などをお願いし、何とか活動費を捻出している。従来のサークル会員の受け入れと併せ、今年度は文化活動に理解のある個人会員の獲得にも力を入れ、会員数増を目指す。左記に活動項目を紹介。

◆ 三和地域の文化の継承、発展に努める。

地域独自の文化活動が維持され、充実するよう、まずは財政基盤の確立を目指し、会員の増強、企業・団体などへの支援要請を進める。また、夜久野町、大江町の各文化協会とともに、福知山市に対し、引き続き、それぞれの協会への助成を求める。市議会にも働きかける。

◆ 福知山市、夜久野町、大江町、舞鶴市綾部市の中丹地域各文化協会との連携を深め、福知山市域、中丹全体の文化振興に寄与する。

◆ 福知山市文化協会との「合流・合併」協議は、夜久野町、大江町の各文化協会と連携して取り組み、それぞれの地域文化活動の継続、充実に資するものになるか、さらに検討を重ねる。

◆ 福知山市新文化ホールの整備に福知山市域各文化協会の意見を反映するた

め、福知山市と話し合う機会を設け、ホールの内容などについて意見交換する。

事業計画

1、機関誌「文化」五十六号の発行

協会員の作品や活動の紹介に加え、会員以外の人たちの文化活動も幅広く取り上げ、地域文化の発展に資する。時宜を得た「特集」などを組み、読み物としても工夫する。

2、三和ふれあいフェスティバルに参画、作品の展示や舞台発表につとめる

三和地域協議会や三和地域公民館、三和荘などと連携して、協会員ら住民による絵や書などの作品展示、踊りや楽器演奏などの舞台発表を盛り上げ、事業の一層の充実、発展に努める。地域住民との文化交流にも役立てる。今年のフェスティバルは十一月八日(土・午後一時から展示のみ)と九日(日)、三和荘で開かれる。



絵は昨秋の同フェスティバル展示作品

三和町文化協会員
瀧本秋夫さんの絵画
「雪景色」

3、文化財の見学旅行

コロナ禍以降、中止しているが、新たなコロナの感染状況や予算面などにらみ検討する。

4、三和荘の生涯学習拠点施設づくり構想に参画

5、中丹文化芸術祭への参加、協力

夜久野町文化協会

事業計画

- ① 令和7年度総会の開催（4月26日）
- ② 第25回「文化祭」の開催
7月12日（土）13日（日）
会場：夜久野ふれあいプラザ
- ③ 第32回「夜久野高原まつり」への協力
8月30日（土）・31日（日）
会場：夜久野高原芝生広場
- ④ 「夜久野地域公民館まつり（ふれあいいきいきフェスタ）」への参加・協力
11月1日（土）2日（日）
会場：夜久野ふれあいプラザ
協力内容：舞台発表、屋外発表、作品展示、スタッフ
- ⑤ 中丹文化芸術祭への参加
- ⑥ 夜久野地域における文化活動への積極的な協力
● 敬老会、高齢者施設、自治会行事、マルシェ、農林商工祭等での演奏
● 公民館講座への協力（調理実習講師、演奏等）
● 「自治会だより」「ふるさとカレンダー」への写真提供
- ⑦ 福知山市域の文化交流をはかる。
- ⑧ 会員の拡大につとめる。

「ロビーコンサート」

「コロナ禍で生まれた新企画」
「からの新たな発展」

「文化祭」は、日頃の活動の成果を発表する機会であると同時に、会員がアイデアを出し合いこの催しならではの企画を生み出す創造の場でもあります。コロナ禍の間も、工夫を凝らして開催してきました。

「ストリートピアノ」はコロナの時期にホールでの舞台発表に替えて、風通しの良いラウンジで演奏したことがきっかけで、好評のためその後も継続して実施しています。昨年、試みて「ストリートピアノぶらす」という企画を設け、ピアノと他の楽器や歌とのコラボ演奏を募集したところ、素晴らしいハーモニーを楽しむことができました。

今年は、これを発展させて「ロビーコンサート」として、事前に演奏時刻も周知に努めました。

時間の最後には、来場者のみなさん一緒に「ふるさと」を歌いました。

会員のアイデアで、企画が進展していく「文化祭」。創造の楽しみを会員みんなで共有しながら、絆を深めていければと思っています。



「ロビーコンサート」
初めての試みでしたが、演奏を間近で鑑賞でき、楽しんでいただきました。

大江町文化協会

事業計画

- ① 鬼力の由良川夏まつり
開催日 令和七年八月二日（土）
会場 福知山市役所大江支所周辺
- ② 第四十四回「大江山酒呑童子祭り」協賛
開催日 令和七年十月二十六日（日）
会場 大江山酒呑童子の里周辺
- ③ 大江地域公民館
「公民館まつり みんなのフェスティバル」共催
開催日 令和七年十一月八日（土）九日（日）
会場 大江町総合会館
内容 作品展示 舞台発表
- ④ 新年互礼会
開催日 令和八年一月
会場 未定
- ⑤ 創立六十周年第五十回 大江町文化祭
開催日 未定
会場 大江町総合会館
- ⑥ 中丹文化芸術祭への参加
- ⑦ 中丹文化協会連絡協議会との交流
- ⑧ 福知山市域文化協会協議会との交流
- ⑨ 大江まちづくり住民協議会との連携
- ⑩ 大江地域観光案内倶楽部等地域活性化団体との連携

結成六十周年を迎えて

大江町文化協会は昭和四十年に結成され、今年で六十周年を迎えました。
結成当初は、旧大江町の教育委員会に事務局があり、行政の協力のもとで活動をしておりましたが、平成十八年に福知山市に合併後は、任意団体として単独での活動をする事となりました。
当時、福知山市文化協会と旧三町の文化

協会の合併協議もございましたが、会員への負担が増えるばかりで、なおかつ、それぞれの地元を基盤としたこれまで通りの活動が難しくなるという理由で合併には至らず、現在も協議を継続している所です。

そんな中で、平成二十四年度には二十六団体二百三名の会員数がありましたが、現在、団体数は十八団体と一定数ありますが、会員数は六十六名となり、存続の危機とさえ言える現状となっています。
これは、ここ数年課題となっていた会員の高齢化が原因と言えます。会員が高齢化によって退会されることは仕方がないにしても、指導者が高齢化によって退か、後継となる指導者が無くて、団体そのものの継続ができなくなることがここ数年の会員数の激減につながっています。

また、六十年という年月を経てきているにも関わらず、知名度、あるいは活動内容を広く広報してこなかったことは、反省の一つとして考えております。年に一回の文化祭を開催することで、旧大江町内の皆様には相応のご理解をいただいているものと思っておりましたが、「文化協会」という団体そのものの理解は、あまり浸透していなかった実態が見えてきました。それは、年一回の文化祭を開催することが目標であったため、広報という点には力が及んでいなかったからです。

今後は、何とか活動を続けていけるよう、新たな仲間を見つけるとともに、積極的に活動をアピールしていくことを活動方針として取り組んでまいりたいと考えています。



昨年の公民館まつり（第49回文化祭）より

福知山市文化協会

事業計画

1 文化事業の実施

(1) 第78回福知山市文化祭
加盟団体が日ごろの研鑽の成果を披露します。

時期／年間を通じて
行事数／25行事【9月1日現在判明分】

(2) 第56回市民文化教室

加盟団体が指導講師を務め、さまざまな初心者向けの教室を開設します。

時期／7月～12月
教室数／18教室

会場／市民交流プラザふくちやま他

(3) 第61回福知山市展
絵画、彫刻・立体造形、工芸、写真、書の入賞作品を展示します。

会期／10月31日(金)～11月3日(月・祝)
会場／市民交流プラザふくちやま

(4) 特別事業「上方男四人衆コンサート」
プロによる舞台芸術を提供します。

期日／11月3日(月・祝) 14時開演
会場／福知山市厚生会館【全席自由】

出演／水口健次(テノール)・竹内直紀(テノール)・時宗務(バリトン)・嶋本晃(バス)・本家規代(ピアノ)

入場料／一般 2,000円
高校生以下 1,000円

(5) 第43回福知山市合唱祭
各界各層が集い、合唱の輪を広げます。

期日／令和8年1月25日(日)
会場／福知山市厚生会館

(6) 第32回文協フェスティバル
加盟団体が一堂に会し交流します。

期日／令和8年2月28日(土) 3月1日(日)

会場／福知山市厚生会館

2 中丹地域における文化事業への協力

(1) 第39回中丹文化芸術祭・第11回中丹文化交流フェスタへの参加

(2) 中丹文化協会連絡協議会・福知山市地域文化協会連絡協議会の交流

3 文化活動に貢献した団体及び個人の顕彰「新年互礼会の席上」

期日／令和8年1月18日(日)
会場／ホテルロイヤルヒル福知山&スパ

4 会誌その他出版物の発行

広報誌「しんかわらばん」を年2回(7月・令和8年3月)発行します。

5 福知山市上下水道部厚生棟の管理

当協会の事務局を置くとともに、文化活動の場として貸館を行っています。

6 その他の事業

(1) FM丹波「文化は心の癒し」出演
毎週月曜日(第1月曜日を除く)の夕方、加盟団体や本部事業の紹介、宣伝を行っています。

(2) 福知山公立大学まちかどキャンパス「吹風舎」への作品展示
新町商店街にある「吹風舎」のギャラリースペースに、加盟団体の作品を3カ月周期で展示しています。

(3) 福知山市教育委員会「福知山市生涯学習まちづくり出前講座」への参画
市民の生涯学習意識を高めるための講座のメニューに登録しています。

(4) 福知山市教育委員会「福知山市社会教育関係団体」への登録
市民交流プラザふくちやまや地域公民館の使用に当たり、加盟団体が当協会事業であることの証明を受け申請することで、部屋の使用料が免除になります。(冷暖房使用料は必要)

綾部市文化協会

事業方針

●文化・芸術を大切にし、その輪を広げよう。

●自分の道(文化・芸術)を楽しみ励み、さらに深めよう。

●文化協会並びに各会派の活動を広報し、広く市民の関心を得よう。

●賛助会員に感謝し、同時に拡大に努めよう。

●会派、会員の増強に努めよう。

●会派及び会員相互の交流・仲間意識を深めよう。

事業計画

第73回綾部市総合文化祭の開催

●FMいかる・あやべ市民新聞によるPR
10月 11月1日(土)

●作品展準備
11月1日(土) 搬入11月2日(日) 市民センター

●オープニングセレモニー
11月2日(日) 市民センター

●作品展
11月2日(日) 市民センター

●芸能発表会
11月3日(月・祝) 中丹文化会館

●お茶席
11月2日(日) 市民センター

●市民センター 他

丹の国まつり協賛

●世界の広場 芸能発表会
4月29日(火・祝) ITビル

●さわやか展
4月29日(火・祝) ITビル

●お茶席 4月29日(火・祝) ITビル

市民文化振興事業

●京都府中丹文化事業団と協議し、主催事業を実施する。

●京都府中丹文化事業団が実施する文化振興事業に積極的に協力し後援参加する。

●第39回中丹文化芸術祭への参加

●第42回綾部市美術展等市の文化振興事業への積極的な協力

●中丹文協連ならびに市内外の文化団体との交流

●各会派による展示会、発表会、大会の後援

●あやべ市民新聞に掲載する、各会派の広告への支援

●会報の発行(第95号)

●役員会、理事会、定例役員会、毎月第1火曜日、理事会11時

●定例評議員会
4月15日(火)(終了後懇親会)

●評議員会
7月8日(火)、10月14日(火)、3月10日(火)

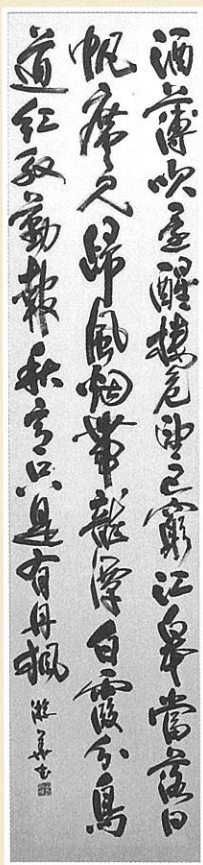
●文化祭反省会
11月18日(火)

●新年互例会
令和8年1月18日(日) 正午
あやテラス
視察・研修
大塚国際美術館と鳴門観潮 7月

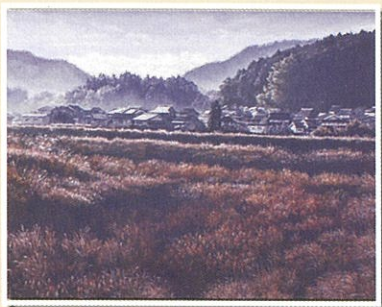
舞鶴市

舞鶴市展 2025 最優秀賞受賞作品

書道



「訪秋」
生島 游華



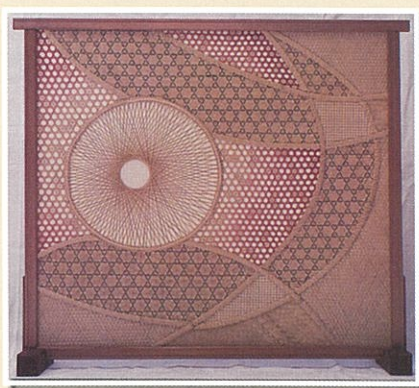
洋画「朝暉」
後藤 大郎



日本画「回想」
辻丸 三代

絵画

工芸美術



「衝立疾風」
小林 道幸

写真



「突進」
細谷 昭二郎

三和町

写真



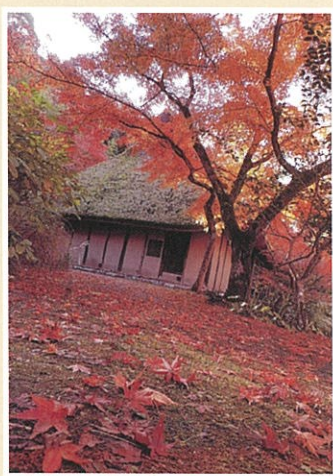
「小坂七滝」(日本滝百選)
赤穂 正

(秋田県鹿角郡小坂町、日本で最も美しい村64連合加盟)

絵画



「想う…」
細見 薫
(福知山市大江町のアトリエで
枯れたひまわりを手に)



「里山の秋」
(南丹市美山にて)
細見 毅
里山の一軒家、懐かしい風景です



俳句

【三和句会】

満月や帰り道には寄り添うて
コンバイン 駆ければ風の爽やかに
この年は米価下がらず秋暑し
芭蕉葉のひと揺れもせで秋暑し
旅果てて家の見え来る秋の雲
道の駅新米囃す里ことば
秋の蟬鳴き細りつつ声澄めり
一枚の風に乗り来るやんまかな
草深く月の透けゆくばかり星月夜
足もとの透けゆくばかり星月夜

河野 正一
後藤 一郎
中谷 利子
樋口 悦子
山内 利男

夜久野町

俳句 【慧日句会】

猛暑日の続き出足の鈍りを
星が飛ぶこの一瞬を独り占め
敬老を祝ふ集ひや萩日和
ひまわりの日焼しまゝに立ち残る
雨後の晴狭ゆるがす村花火
桐一葉掃きたる庭へ音もなく
池に降る小さき木の実は小さき紋

幸子 明美 弥生 福代
直 充 六

川柳

【川柳夜久野会】「題」花火

一夏に賭ける花火師おとこいき
吾子の手や線香花火もう一つ
屋上が家族をつなぐ花火の日
喝采を浴びて花火は闇に咲く
花火燦々あとの心の爽快さ
帰省の子青田に向けて花火打つ
子ら見入る線香花火おもしろさ
尺玉ドーン小さなことは忘れよう

白髭 順
帕尾 充
吉谷 キミ
田邊 龍子
羽上田 禮子
上山和 津代
皆谷 桂子
荻野美 智子

【煎茶売茶真流夜久野】

お茶道具の展示

7月に開催された「文化祭」で、展示会場に煎茶の道具を展示。多くの来場者に見ていただきました。

お茶菓子には「COOKやくの」さんに協力いただきました。

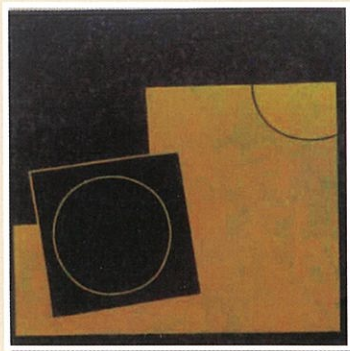


大江町

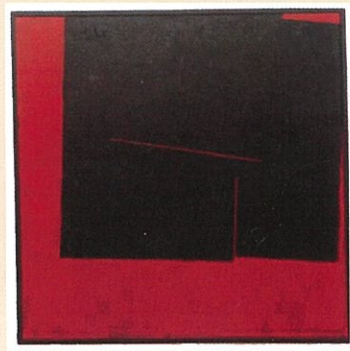
絵画



「あの時の」 S100
森 畑 哲 夫



「今 A」 S80
三 家 明 子



「今 B」 S80
三 家 明 子

福知山市

華道

【福知山華道連盟】

池坊
伊東知代・藤原順子小原流
田淵百合子未生流
永井節甫嵯峨御流
西川住甫

綾部市

俳句

【綾部市俳句連盟】

短歌

【林泉綾部短歌会】

生花 未生流
村田良甫綾部愛石会
井上稔

鎮魂の海の青さや飛魚あごの群
まひまひの安らいでゐる神の池
脱ぎ捨てを叱るものなし蛇の衣
一億年急がず慌てず蝸牛
逃水を老僧若僧揺れゆけり
おでかけは変身します草取り女

西村 洋平
竿山 康枝
大槻 祐二
塩尻 善英
四方 禎治
上柿 孝子

卒寿とは思へず澆漓と歌学ふ三人の友にまねびゆきたし
わが通ふ医院に咲けるアーモンドはゴッホ描きし淡きくれなる
西山に沈みゆく日は空一面広がる鱗雲を茜に染めぬ
届きたる歌誌を開けば母想い母を詠みたるわが歌いくつ
万博を見るかと誘ふ息子らにためらうことなく頼むと返す
草刈る中雑草なれど春紫苑刈らずに置きて切り花にする
藤岡久美子

四方 弘子
四方 照代
玉川 滋子
富本 澄子
西村すみゑ

みんなの 交流広場



福知山市

理事
山路 聖市

人生を変えた出会い

高校三年夏。全国高校サッカー選手権京都府予選を最後に部活を終えた私に、友人が秋の文化祭に出てほしいという。合唱部が「第九」演奏のため人を集めているらしい。

音楽への興味は全くなかったが友人の顔を立てるつもりで初めて音楽室へ。木造校舎の甘い匂いに包まれた西日の差し込む階段教室。大きな窓には少し波打った硝子。いまでは記憶に留めておくしかなくなったこの歴史のある音楽室の扉は私の人生を変える扉となった。

これをきっかけに大学では聖歌隊の一員として合唱を続けた。Uターン後にまた同じ友人から地元の合唱団への参加を呼びかけられ、合唱活動が続くこととなった。社会人サッカーは四十歳で脚を痛め引退。終わりのない合唱だけが残った。

合唱を通じて得ることのできた素晴らしい経験や学びを次の世代に繋げていきたい。今後の私の活動の糧である。

舞鶴市

副会長
塩見 光子

茶道に携わり

裏千家淡交会の茶道を習いはじめて、間もなく青年部にも入会し、何もわからず言われるままに行動していました頃が、つい最近のように懐かしく思い出されます。

月日を重ね先輩方のご指導の元、淡交会で役員として活動させて頂いておりました。何をしても続かないのに、茶道は今日迄まがりなりにも続いている自分がとても不思議に思えます。その折には、文化祭の行事に参加したり、他加盟団体の事業を拝見したりして、文化協会の会員として関わりを持たせて頂いておりまし

た。それからは、常任理事として現在に至っております。

茶道は人と人との交わりを通じて、思いやりの心、相手を敬う心、感謝する心など豊かな心を養う精神文化です。

その素晴らしい茶道を多くの方々に伝え理解して頂けるよう、長年携わってきた茶道の精神を忘れず、文化向上、発展の為に、微力ではございますが尽くしてまいりたいと思います。

綾部市

副会長
杉森 豊和

ジュニア文化祭

去る八月十七日ジュニア文化祭を拝見させていただきました。出演者一五〇名によるダンス・バレエ・太鼓・日本舞踊・フラダンス・太鼓・合唱・箏弦演奏のプログラムでした。児童・生徒の皆さんの活気あふれるステージに感動いたしました。

特に深く心に残りましたのは圧倒的な熱意です。若さの発露なのでしょうが。本当に羨ましく思いました。自分に与えられた役割を果たそうと努力を積み上げたこと、仲間と協力することの大切さ等々、いろんな経験を詰まれているステージがあることを感じました。

それぞれの演目において、皆さんが自分の役割を楽しみ、輝いている姿がとても印象的でした。ステージ上でスポットライトを浴びる真剣な顔、終わった時の安堵感や達成感を感じる笑顔がとても素敵でした。次代を担う「立派な文化人」の姿がそこにありました。

感動と喜びを与えてくれた皆さん、そしてご指導にあたられた先生方に心より感謝しつつ会場をあとにしました。

三和町

会長
後藤 定司

かの国の大統領

かの国の大統領は強権的でやんちゃである。テレビや新聞で知る限り、そう映る。高関税をかけて他国を揺さぶり、戸惑わせる。けた外れの力を持つ大国の大統領だけに始末が悪い。日本も高関税をめぐる取引で、約八十兆円に

も及ぶ投資を約束させられた。それも投資先はかの国の大統領が選ぶという一方的なもので、日本が何らかの理由で資金の拠出を止めた場合、今度は高関税となつて跳ね返るらしい。

この大統領はまた、自国の国防総省を「戦争省」と呼ぶ大統領令に署名した。世界最強とされる軍勢力を持ち、「力による平和」を自らの信条とする思いかららしいが、平和の危うさが問われる国際情勢の中で、攻撃的な響きを持つ戦争省はやはりいただけない。

力を過信する者は力に弱い。大国の軍拡競争はより強い力を求めて激化するだろう。かの国を最友好国と頼る日本。いよいよに巻き込まれないよう願いたいものだ。

それにしても民主主義のお手本とされるかの国。専横的な大統領の振る舞いに議会や司法、そして国民の反応が少し鈍いように感じるが、どうなのだろう。社会の分断が激しく進む中、多様な意見の交換が機能不全に陥っているのだろうか。

夜久野町

副会長
夜久 早百合

いつまでも大好き和太鼓活動

四十歳の時に和太鼓に出会い、飽きもせず三十年和太鼓演奏活動をしています。沢山のひととのご縁をいただきました。和太鼓は、私の歩みの中で困難な時も、嬉しい時も、どんな時も私の芯となり、力を与えてくれます。

「いつまでできるのか」と迷いながらも、五つの所属団体でそれぞれ楽しく活動している矢先、六月に利き手の右腕を骨折してしまいました。腕の骨の位置が完全に違う位置に飛び出しているのを見て「痛い」とは言わず「骨が折れた太鼓できへんなあ」とずっと言っていたのを覚えてます。救急車の救急隊員には「七月十三日に夜久野町文化祭があるんです」と訴えて、病院に着いても看護師さんや先生に太鼓の出番のことばかり伝えていたようです。手術をして退院してからは、毎朝起き上がる前の一時間は指先から順に手首、腕とりハビリを頑張ってきました。

骨折したことで、一旦活動が止まり、自分が

高齢者であることを自覚し、今後どういう歩みがしたいか？どうしたらこれまで同様みんなと楽しく活動ができるのか？自分を見つめ、毎日自分探しをしました。各団体への練習には、それぞれ仲間や保護者が迎えに来てくれて、顔を出しました。練習を観ていて打てないところなど、気持ちがなるのか？情けなく寂しくなるのか？と。やがて答えがはつきりわかってきました。観ているのも楽しい！！そのうち「MCやって」「左手一本で伏せ太鼓なら打てるんやない」と引っぱりだしてくれて、心地好い空間で楽しく活動しながら回復へ向かっています。家族や周りには随分迷惑をかけています。が、いつまでも大好き和太鼓活動はもう迷うことなく続きそうです。

大江町

顧問
山根 昇

文化の継承と発信を

大江町文化協会発足六十年です。人間であればこれからユックリ趣味実益を生かした、人生へと進んでいくのが自然かなと思います。

文化と名がつけば、個人・団体・地域の事業として楽しみながら生活の一環として生かされている。昨年海外からの旅行者三六八七万人。この人達は、都会の名所・名物を観光して帰る。これらの人々に、日本の歴史ある歌舞音楽を楽しんで欲しい。古典物を上手に継承して絶えることなく、永く続いている国こそが平和国家だと信じている。

そんな日本を、都会見学に飽きた外国の人々に楽しんでもらいたい。海外からのお客様、田舎の涼しい所ですばらしい音色を聞いて下さい。

編集後記

中丹文協連だより第22号をお届けします。

この「たより」が各協会の更なる発展と交流の場としての役割が果たされれば幸いです。

皆様のご健勝をお祈り致します。

編集委員

(三) 和 後藤定司(舞鶴) 松浦盈雅
(大) 江 山田忠士(福知山) 稗田勲子
(夜) 久野 夜久正子(綾部) 杉山秀行